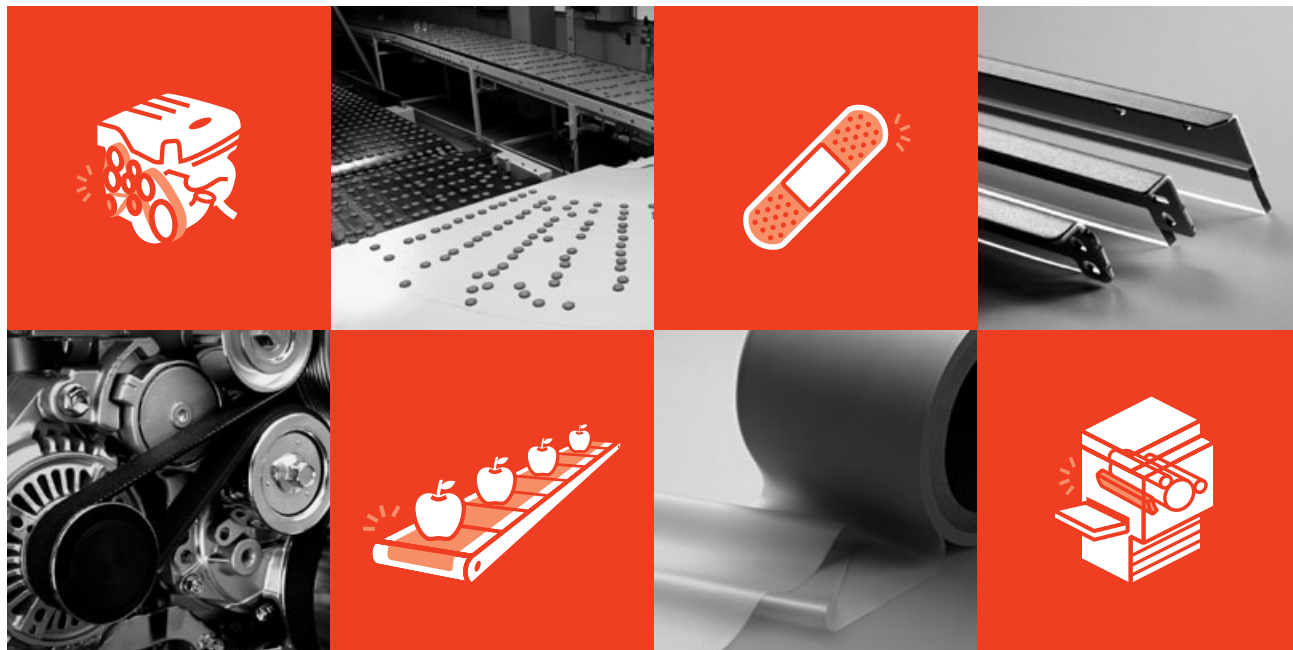




Breakthroughs for the future

第93期 株主通信

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで



バンダー化学株式会社

節目の創業110周年を迎え、 “未来への躍進”に向けて

代表取締役社長

吉井満隆



ご挨拶

2016年4月に発生した九州地方における地震災害におきまして、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

株主の皆様には、日頃は格別のご高配に預かり、心からお礼申し上げます。第93期株主通信をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

当年度における世界経済は、米国において雇用環境や個人消費の改善により、緩やかな景気拡大が継続し、欧州においても地政学リスクが高まるものの景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、アジアにおいては、中国の経済成長が一段と後退し、この影響を受けたアセアン地域も不安定な状態で推移いたしました。また、日本においては、政府や日銀の経済対策の効果により、緩やかな回復が継続いたしましたが、世界経済の減速懸念を背景に先行きに不透明感が強まるなかで推移いたしました。

当社グループの主要な市場である自動車分野におきましては、米国や欧州では引き続き自動車生産台数が好調に推移いたしました。中国においては、年度の前半は新車販売の不振から減産の動きが広がりましたが、昨年10月に実施された小型車に対する減税措置の影響により、生産台数が前年度を上回りました。一方、日本では軽自動車税の引き上げ前の駆け込み需要の反動により、生産台数が前年度を下回りました。また、産業機械分野において

は、国内の設備投資需要が引き続き堅調に推移したほか、高機能フィルムの主要な市場である国内の住宅分野においては、緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、中長期経営計画“Breakthroughs for the future”（未来への躍進）の第1ステージの3年目として、自動車用、二輪車用、農業機械用および一般産業用の伝動ベルトのほか軽搬送用ベルトなどを主軸として、販売体制を強化し、日本や中国、アセアン地域を中心に顧客開拓を推進いたしました。また、ベルトおよびその周辺製品の開発を進めたほか、伸縮性ひずみセンサである「C-STRETCH®（シーストレッチ）」など、新規事業領域の製品を開発いたしました。一方、収益力向上のため原価低減活動を徹底し、世界最適調達・生産・供給体制の構築によるグローバル競争力の強化などにも取り組んでまいりました。これらの結果、当年度は、売上高は932億7千2百万円（前年同期比2.2%減）、営業利益は59億6千万円（前年同期比24.3%増）、経常利益は63億6千3百万円（前年同期比11.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は43億8千6百万円（前年同期比16.7%増）となりました。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

トップインタビュー



創業110周年を迎えました。



当社は、1906年(明治39年)神戸で創業して以来、ベルト製品を中心にゴム・エラストマー関連の事業活動を続けてまいりました。今般、創業110周年を迎えることができましたのも、株主の皆様をはじめとするステークホルダーの皆様のご支援の賜物であると深く感謝しております。当社の歴史を振り返ってみますと、創業当時の繊維産業など、各時代の経済成長を担う産業を支える製品を開発・生産することにより、社会の発展の一端を担ってきたと考えております。創業当時の想い“バンドースピリッツ”を胸に、現在、当社グループが取り組んでおります中長期経営計画“Breakthroughs for the future”（未来への躍進）において、これまでに進めてまいりましたベルト製品などのコア事業の製品開発や製法革新の成果を着実に刈り取るにより、第1ステージの着地点が見える位置にまで歩みを進めていきたいと考えております。



国内外における事業展開の方針をお聞かせください。



今後の成長が期待されるアジア市場を中心に、当社グループのコア事業であるベルト事業において重点的に経営資源を投入して、さらなる事業拡大を図っております。具体的には、グローバル市場戦略の進化に向けて、海外の主要生産拠点の生産能力を拡充いたします。また、主要製品毎にターゲットとなる市場を細分化し、顧客に密着した販売ネットワークをさらに強化するとともに、技術対応を含むカスタマーサービスを提供し

てまいります。これらの施策により、グループにおける世界最適調達・生産・供給体制をさらに強化してまいります。ものづくりの進化につきましては、各地の品質、価格に適合した現地適合仕様の開発や国内で開発した革新製法の海外拠点への積極的な展開を進めてまいります。また、新たな事業の創出に向けて、さらなるイノベーションを目指してまいります。

今後、全社一丸となって、コア事業の深耕と新事業の創出を加速させ、遅しく未来への躍進を目指してまい



製品で振り返る110年

バンドー化学の1世紀以上の歩み。それは創意工夫の精神
“バンドースピリッツ”による新製品開発の軌跡です。

創業期の明治から大正、戦争を挟んだ昭和、そして現在につながる平成まで、
いつの時代にも日本初や世界初の製品などを次々に生み出してきました。
“未来への躍進”に向けて、時代のさきがけとなった
製品を振り返ります。

1906－1912
[明治－創業]



● 創業品「阪東式木綿調帯」

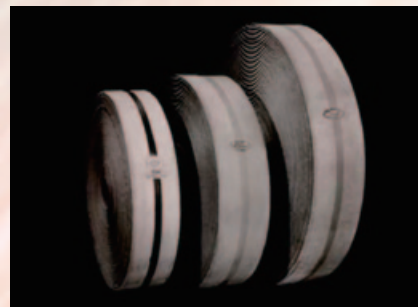
木綿製ベルトの開発と普及を目指して。

工業化に向けて産業機械の駆動が手動から動力機に置き換わることを察知し、木綿製ベルトの開発とその普及に努めた。

1912－1926
[大正]

**ゴムの可能性に着目し、
ゴム製ベルトを開発。**

いち早くゴムの可能性に着目し、1913年、念願の国産ゴムベルト「サンベルト」を開発。1921年には日本初のコンベヤベルトの生産を開始した。



● 国産ゴムベルト「サンベルト」

1926－1945
[昭和－戦前・戦中]

**工業化の進展に伴い、
産業用製品が本格普及。**

1931年に日本の農業界の動力化に大きく寄与した「もみすりロール」。1932年には、電動機の発達とその小型化に貢献する純国産Vベルトを開発した。



● 日本初のVベルト「パンロープ」

1945－1989
[昭和－戦後]

**塩化ビニル製品や樹脂など
新分野への挑戦を開始。**

日本の復興とともに、塩化ビニル製品の生産やポリウレタン弾性体の技術導入、樹脂成型品の開発やロボット関連製品などの新分野への挑戦を開始した。

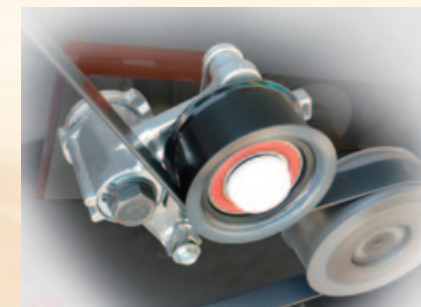


● 樹脂成型品「ミューライト」

1989－現在
[平成]

**より効率的な省エネ製品の
開発を推進。**

時代に先駆け、1990年代から省エネ型Vベルトを販売。社会の環境意識の高まりを受け、2008年に高い省エネ性を実現する「HFDシステム」を開発した。



● 平ベルト駆動システム「HFDシステム」

TOPICS

- 連結子会社であるビー・エル・オートテック株式会社が新世代重可搬クイックチェンジQUICK-CHANGE®GIGAを販売開始
- 「第6回高機能フィルム展」に出展(東京ビッグサイト)
- 東京支店を移転
- 当社ホームページを全面リニューアル



QUICK-CHANGE® GIGA



当社ホームページ



第6回高機能フィルム展

2015
3月

- ベルト製品の生産ライン刷新に着手



加古川工場



足利工場

4月

- 「M-Tech2015」に出展(東京ビッグサイト)



M-Tech2015

5月

6月

7月

8月

- 「サイン&ディスプレイショウ2015」に出展(東京ビッグサイト)
- 「CSR報告書2015」を発行



CSR報告書2015→



↑サイン&ディスプレイショウ2015

9月

10月

- 業界初！荷崩れを防ぎ、輸送の信頼性を高める輸送貨物の「固縛ベルト用張力計」を開発



固縛ベルト用張力計

11月

12月

2016
1月

2月

3月

- 「バンドーテクニカルレポート No.20」を発行

バンドーテクニカルレポート No.20



- 「第2回ウェアラブルEXPO」に出展(東京ビッグサイト)



第2回ウェアラブルEXPO

- 高負荷対応の歯付ベルト「Ceptor®-X(セプターテン)S8Mタイプ、S14Mタイプ」を販売開始

- 環境にやさしい樹脂製ベルト欧州委員会規則に適合した軽搬送用ベルト「サンライン®ベルト」を販売開始



サンライン®ベルト

- 「メッセナゴヤ2015」に出展(ポートメッセなごや)
- 「第4回鉄道技術展」に出展(幕張メッセ)

- 工作機械摺動部用シールブレード「バンドーワイパーエッジ®EX(イーエックス)」を販売開始

トピックス

2015年
11月

高負荷対応の歯付ベルト「Ceptor®-X(セプターテン)S8Mタイプ、S14Mタイプ」を販売開始

当社は、様々な産業機械(医療機器・ロボット・射出成型機・プレス機械・印刷機械・運搬搬送機器等)の同期伝動に最適なシンクロベルト®「Ceptor®シリーズ」の最上級グレードとして、高トルク伝動を実現した高負荷対応の歯付ベルト「Ceptor®-X(セプターテン)」を開発し、2015年11月から販売を開始しています。高トルク伝動を実現した製品を品揃えすることによって、国内外におけるさらなる販売拡大に取り組んでまいります。



2015年
10月

メキシコにて新会社の事業開始

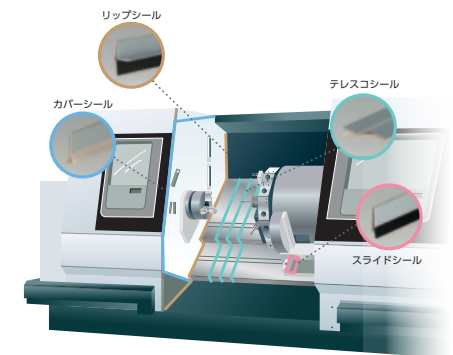
当社の子会社であるBando USA, Inc.は、メキシコシティにて新会社Bando Belting de Mexico, S.A. de C.V.を設立し、2015年10月から伝動ベルト製品などの販売事業を開始しています。同国は、北米および中南米向けの自動車生産拠点として自動車生産台数が著しく伸長しており、伝動ベルト製品の市場もさらなる拡大が見込まれています。同国で伝動ベルト製品および関連製品をタイムリーに供給する現地納入体制を構築することによって、今後の需要の伸長に対応してまいります。



2016年
2月

工作機械摺動部用シールブレード「バンドーワイパーエッジ®EX(イーエックス)」を販売開始

当社は、工作機械における摺動部のシール材として最適なシールブレード「バンドーワイパーエッジ®EX」を開発し、2016年2月から販売を開始しています。当製品は、シール部に特殊ポリウレタンを用いることにより、耐クーラント性(耐膨潤性)、耐高速摺動性、耐摩耗性に優れたシールブレードです。従来のゴム製シールブレードに加え、ポリウレタン製シールブレードを品揃えすることで、より多くのお客様に幅広い使用条件でお使いいただけるため、バンドーワイパーエッジ®のさらなる販売拡大を目指してまいります。



事業別の概況

ベルト事業

売上高	75,878	百万円	前年同期比	2.8%減
セグメント利益	5,248	百万円	前年同期比	26.3%増

概況のポイント

- ▶自動車部品では、自動車の補機駆動用伝動ベルトは、海外市場において自動車生産台数が増加したものの、日本においては減少したため、全体では販売が減少。一方、補機駆動用伝動システム製品は、日本とアジアにおいて需要が伸び悩み、販売が減少。また、スクーター用変速ベルトは、アジアにおいて販売が伸長。
- ▶産業資材では、産業機械用伝動ベルトおよび農業機械用伝動ベルトは、米国や中国、アセアン地域における市場開拓が奏功し、販売が伸長。運搬ベルトは、急傾斜用コンベヤベルトの販売が順調に推移したものの、資源開発用のコンベヤベルトは、資源価格下落による需要減少のため、販売が減少。また、樹脂コンベヤベルト（サンライン®ベルト）は、国内において食品機械などの製造工程に使用されるベルトの販売が伸長したものの、海外においては、中国の食品工場の稼働率低下などにより、販売が減少。

エラストマー製品事業

売上高	15,619	百万円	前年同期比	0.6%減
セグメント利益	759	百万円	前年同期比	131.0%増

概況のポイント

- ▶精密機能部品では、中国、アジアを主としたOA機器メーカーの減産の影響により、高機能ローラおよび精密ベルトなどの販売が伸び悩んだ。
- ▶機能フィルム製品では、工業用フィルムの販売が減少したものの、積極的な営業活動により建築資材用フィルムやインクジェットプリント用メディア[バンドーグランメッセ®]など装飾表示用フィルムの販売が伸長。

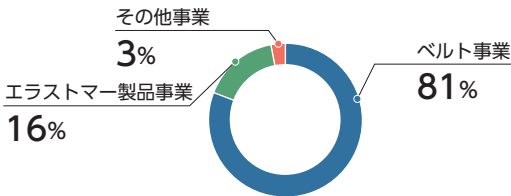
その他事業

売上高	2,630	百万円	前年同期比	0.6%減
セグメント利益	275	百万円	前年同期比	39.2%増

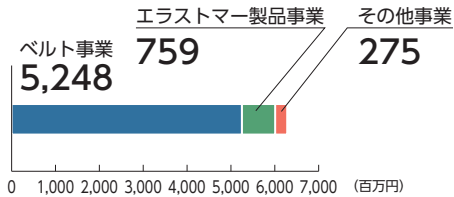
概況のポイント

- ▶ロボット関連デバイス事業や金属ナノ粒子のナノ粒子創生技術などを活かした新製品開発を推進。

当年度の事業別売上高構成比



当年度のセグメント利益



財務ハイライト

連結貸借対照表 (要旨)

(単位: 百万円)

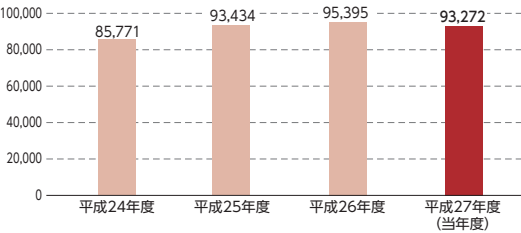
科目		当連結会計年度 (H28.3.31)	前連結会計年度 (H27.3.31)
資産の部	流動資産	47,520	49,119
	固定資産	43,244	45,580
	有形固定資産	29,486	31,089
	無形固定資産	1,188	1,374
	投資その他の資産	12,568	13,115
資産合計		90,765	94,699
負債の部	流動負債	24,980	25,971
	固定負債	10,580	11,952
負債合計		35,560	37,923
純資産の部	株主資本	55,756	52,544
	その他の包括利益累計額	△970	3,728
	非支配株主持分	418	502
純資産合計		55,204	56,776
負債純資産合計		90,765	94,699

連結損益計算書 (要旨)

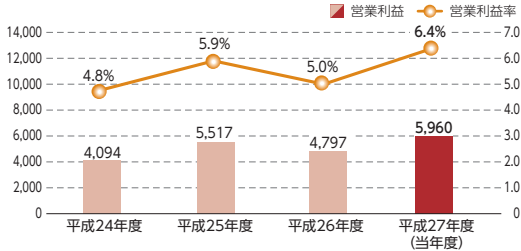
(単位: 百万円)

科目	当連結会計年度 (H27.4.1 から H28.3.31まで)	前連結会計年度 (H26.4.1 から H27.3.31まで)
売上高	93,272	95,395
営業利益	5,960	4,797
経常利益	6,363	5,730
親会社株主に帰属する当期純利益	4,386	3,758

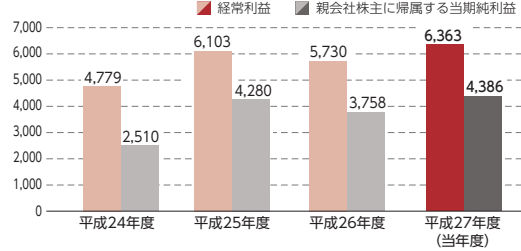
売上高 (百万円)



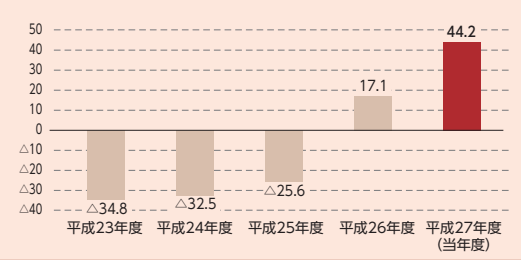
営業利益／営業利益率 (百万円)



経常利益／親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



純有利子負債の推移 (億円)



※当年度から、従来の2事業本部・4事業部体制から「自動車部品事業部」、「産業資材事業部」および「高機能エラストマー製品事業部」の3事業部体制に再編しておりますが、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えることが実務上困難であることから、変更前の前年同期の数値と比較しております。
※上記の各セグメント別売上高およびセグメント利益は、セグメント間取引消去前の金額で記載しております。

株式の状況

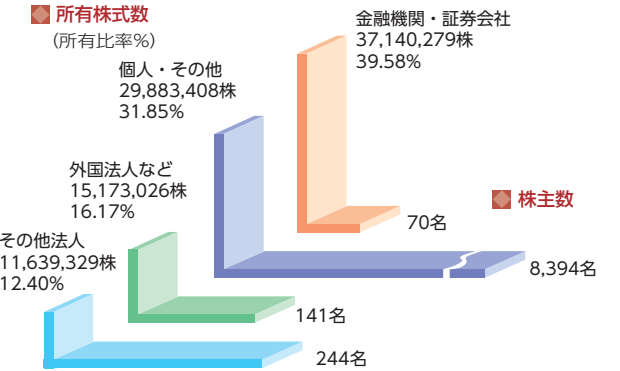
発行可能株式総数	378,500,000株
発行済株式の総数	94,427,073株
	(自己株式591,031株を含む。)
株主数	8,850名

大株主

大株主名	当社への出資の状況	
	持株数	出資比率
バンドー共栄会	7,299千株	7.77%
株式会社三井住友銀行	4,651	4.95
三菱UFJ信託銀行株式会社	4,004	4.26
明治安田生命保険相互会社	4,000	4.26
株式会社みずほ銀行	3,600	3.83
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,150	3.35
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,997	3.19
日本生命保険相互会社	2,349	2.50
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,035	2.16
東京海上日動火災保険株式会社	1,839	1.96

(注) 1. 出資比率は、自己株式（591,031株）を控除して算出しております。
2. 上記の出資比率につきましては、小数点第3位以下は切り捨てて表示しております。

株主構成



会社概要

社名	バンドー化学株式会社 Bando Chemical Industries, Ltd.
創業	1906年（明治39年）4月14日
設立	1937年（昭和12年）1月7日
本社事業所	神戸市中央区港島南町4丁目6番6号 TEL (078) 304-2923
ホームページアドレス	http://www.bando.co.jp

役員（平成28年6月23日現在）

取締役	
代表取締役社長	吉井満隆 (社長執行役員)
代表取締役	玉垣嘉久 (専務執行役員)
取締役	中村恭祐 (常務執行役員)
取締役	柏田真司 (常務執行役員)
取締役(監査等委員)	松坂隆廣
取締役(監査等委員)	重松崇生
取締役(監査等委員)	清水春生

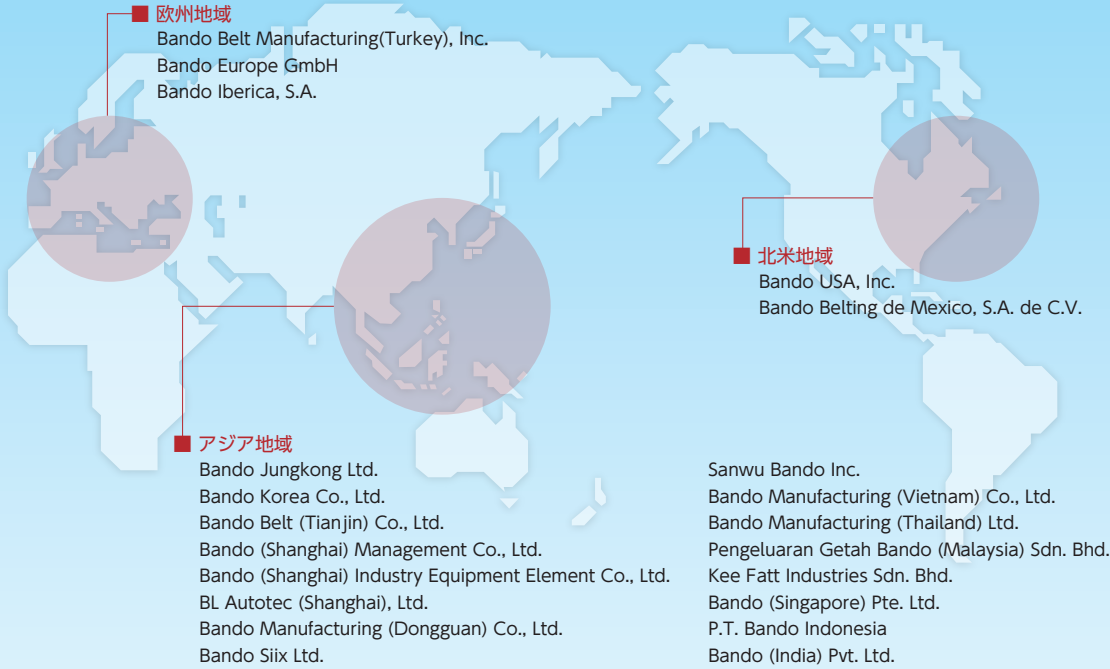
執行役員

常務執行役員	大原正夫
常務執行役員	岩井啓次
常務執行役員	北林雅之
常務執行役員	鮫嶋壽
執行役員	Joseph David Laudadio
執行役員	畑克彦
執行役員	山口勝也
執行役員	永瀬貴行
執行役員	万場一幸
執行役員	松尾聡
執行役員	染田厚

※取締役（監査等委員）松坂 隆廣氏、取締役（監査等委員）重松 崇氏、
取締役（監査等委員）清水 春生氏は社外取締役であります。

事業所・グループ企業一覧（平成28年4月1日現在）

海外関係会社



事業所

本店（本社事業所）・R&Dセンター
東京支店、名古屋オフィス、
大阪オフィス、足利工場、
和歌山工場・R&Dセンター伝動
技術研究所、南海工場、
加古川工場

国内関係会社

- 販売・加工サービス関係会社
 - バンドー福島販売株式会社
 - 東日本バンドー株式会社
 - バン工業用品株式会社
 - 浩洋産業株式会社
 - 北陸バンドー株式会社
 - 西日本バンドー株式会社
 - バンドーエラストマー株式会社
- 製造関係会社
 - 福井ベルト工業株式会社
 - ビー・エル・オートテック株式会社
 - バンドー・ショルツ株式会社
- その他サービス関係会社
 - バンドートレーディング株式会社
 - バンドー興産株式会社

株 主 メ モ

事業年度	毎年 4 月 1 日から翌年 3 月31日まで
定時株主総会	毎年 6 月
期末配当金受領株主確定日	毎年 3 月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年 9 月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
同 連 絡 先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町 3 丁目 6 番 3 号 TEL (通話料無料) 0120-094-777
公 告 方 法	電子公告により行う。 公告掲載URL http://www.bando.co.jp ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合は、 日本経済新聞および神戸新聞に掲載して行う。
上 場 取 引 所	東京 (第 1 部)

〈ご注意〉

1. 株主様の住所変更、单元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店でもお取り扱いいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



バンドーグループは
環境にやさしい事業を
推進しています

